



縁結びのパワースポット「九頭龍神社」

大涌谷からロープウェーで桃源台に下(くだ)り、当日は、芦ノ湖畔の「[箱根レイクホテル](#)」に一泊します。このお宿の利点はロープウェーや海賊船の乗り場に近いか、箱根フリーパスを使って箱根を一周する旅には最適です。

電車を使わず車で来た場合には、箱根ロープウェー一日乗車券(1,500円)をお勧めします。大涌谷へは車でも行けませんが、ロープウェーから見る富士山と大涌谷の噴煙は雄大で、車では味わえない感動が味わえます。不思議なことにこの一日乗車券、ホテル宿泊者だけが手に入れられるプレミアム・チケットの様でした。

翌日は、[九頭龍\(くずりゅう\)神社](#)にお参りします。箱根には九頭龍神社が2つあって、目指すのは湖尻に近い本宮(ほんぐう)です。九頭龍とは、芦ノ湖に住んでいた九つの頭と尾を持つ竜で、そうとう暴れん坊だったらしいです。ここは、なぜか縁結びや恋愛成就にご利益(りやく)があるとされ、今では若者に大変人気のパワースポットです。

しかしながら、毎月13日に催される月次祭以外には公共交通手段のない陸の孤島。ホテルからの距離はおよそ2kmなのですが、湖沿いに「歩行者・自転車専用道路」が通っているので、清清(すがすが)しい風を浴びながら自転車での散策に最適です。

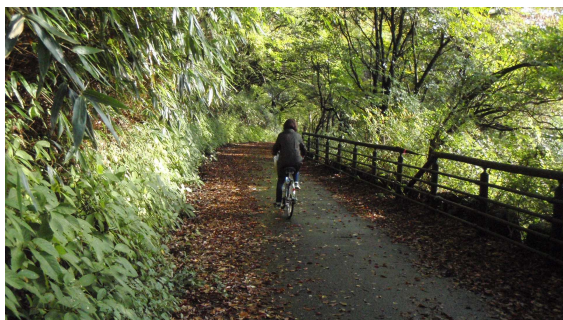
自転車は、近くの「[芦ノ湖キャンプ村](#)」で貸して貰えます。1時間500円で、なんと箱根の厳しい山道も苦にならない[電動アシスト自転車](#)です。ここ「芦ノ湖キャンプ村」は比較的綺麗な施設、バーベキュー用品一式レンタルは勿論のこと、食材(牛コース1人前2,000円)や飲み物まで現地調達出来るので、手ぶらで出掛けても問題ありません。

話を戻して九頭龍神社へは、電動アシスト自転車でおおよそ15分、車の通らない湖畔の道「[神山通り](#)」を走ればあっという間に着いてしまいます。「箱根園」入口から森の中を数分歩けば湖に立つ朱色の鳥居が見えてきて、その岸辺に九頭龍神社はありました。ここは正に、静かな湖畔の森に囲まれた神聖な神の領域でありました。

納得できないのは「箱根園」に支払う500円。九頭龍神社に行くためには箱根園の敷地をとるため、その通行料と言うことらしいのですが、どこか納得いきません。沖縄の首里城近くにある世界遺産「[玉陵](#)」(たまうどうん)でも、礼拝のために敷地内を通るのは無料でありました。



「芦ノ湖キャンプ村」



九頭龍神社へ続く自転車道



九頭龍神社



恋愛成就の「箱根神社」

一旦ホテルに戻り、次は[海賊船](#)で箱根町に向かいます。ところで、昨日宿泊したホテルは小田急系列、そしてこれから乗船する海賊船も小田急です。この海賊船も箱根山戦争の産物で、米国ディズニーランドのアトラクションをヒントに建造したといわれています。

箱根町までは片道およそ30分、今日は典型的な秋晴れで、爽やかな船の旅が満喫できます。乗客は外国人でいっぱい。日本人は人前で大声を出さないよう躑(しつけ)られていることもあって、聞こえるのはほとんど中国語です。進行方向右手には、午前中に散策した九頭龍(くずりゅう)神社の小さな鳥居が確認できます。振り返れば富士山が外輪山越しに顔を覗かせていて、まさに、これが箱根の風景です。

芦ノ湖の湖尻「桃源台」から海賊船に乗って箱根町港にやってきました。船が棧橋に着いたら、今年出来たばかりの茶屋本陣『畔屋』(ほとりや)に直行します。その中にあるのが[cafe KOMON『湖紋』](#)で、芦ノ湖が良く見える席を確保し今年の箱根スイーツコレクションを頂きます。



箱根神社

ひと休みした後は、箱根神社へ向かいます。午前中にお参りした九頭龍(くずりゅう)神社と両方お参りすることを両社参りと云い、より多くのご加護にあずかれるという噂です。箱根町港から箱根神社へはフリーパスを使ってバスで向かいます。下車するバス停は元箱根、そこから10分程歩けば箱根神社に到着です。

この神社には、若い人が目立ちます。それもその筈、[箱根神社](#)には、本宮から分社化された九頭龍(くずりゅう)神社の新宮が祀られていて、縁結びの一大パワースポットとなっているようです。

湖の中には「[平和の鳥居](#)」と呼ばれる大きな鳥居が立っていて、先(ま)ずはここで一礼します。本来、鳥居を潜(くぐ)る時は一礼が必要とされていますが、鳥居がたくさんある場合には、一の鳥居に一礼しておけば、後は省略できると云うことです。杉の巨木に囲まれた参道を進むと右手に水舎(みずや)があって、そこで手を清めます。そこから長い階段を上って拝殿へと向かい、二礼二拍手一礼すれば拝礼の儀は終了です。

【御手洗の使い方】

- (1) 右手にひしゃくを持ち、左手に水を掛ける。
- (2) 左手に持ち替え、右手に水を掛ける。
- (3) また右手に持ち替え、左手で水を受ける。
- (4) その水で口をすすぐ。
- (5) 残った水を柄杓の柄に流して元の位置に戻す。

ただし、拝礼前にお賽銭(さいせん)を忘れてはいけません。「地獄の沙汰(さた)も金次第」、「金があれば馬鹿も旦那」。多少礼儀や作法は知らなくとも、お賽銭さえ忘れなければ大概(たいがい)のことは許されます。